

を継続し、測定データや解析結果を充実させていく必要性を報告した。

・赤崎いずみ，岩切淳，関屋幸一，中村公生，  
富山幸子，祝園秀樹，徳山和秀<sup>\*1</sup>，富山典孝<sup>\*2</sup>，  
迫昭男<sup>\*3</sup>，森下敏朗<sup>\*4</sup>

○県内河川におけるダイオキシン類の分布状況  
及び発生由来の推定

宮崎大学産学連携センター 第 15 回技術・研  
究発表交流会

(平成 20 年 7 月 30 日 宮崎市)

<sup>\*1</sup>：県立宮崎病院，<sup>\*2</sup>：環境管理課，<sup>\*3</sup>：延岡保  
健所，<sup>\*4</sup>：(財)宮崎県産業支援財団

平成 14 年度から 18 年度に測定した，県内  
河川水におけるダイオキシン類について，その  
分布状況をまとめた。また異性体の構成比率か  
ら発生由来の推定を試み，以下の結果を得た。

① 県内河川水のダイオキシン類は全ての地点  
で環境基準を達成しており，全国平均と比較し  
ても低い値であった。

② PCDDs/PCDFs の発生由来としては，すべ  
ての地点で農薬(CNP, PCP)が推定され，燃焼  
系由来が推定されたのは数地点のみであった。

③ Co-PCBs の発生由来としては主に PCB 製  
品由来が推定された。

・関屋幸一，岩切淳，中村公生，赤崎いずみ，  
中村雅和，富山幸子，高木正博<sup>\*1</sup>

○後背地に広葉樹林あるいは針葉樹林を擁する  
小規模河川の底生動物による水質評価

第 34 回九州衛生環境技術協議会

(平成 20 年 10 月 9 日 長崎市)

<sup>\*1</sup>：宮崎大学農学部

広葉樹あるいは針葉樹と酸性降下物の関係  
や，河川生態系における底生動物相への影響を  
把握することを目的に，宮崎大学田野演習林内  
の小規模河川(清武川水系)において，大型底  
生動物による水環境の評価を行い，以下の結果  
を得た。

① 後背地に針葉樹林を擁する地点の河川水  
は，広葉樹林型及び針広混交林型に比べると  
EC, Ca 及び Mg が低く，清澄な水質であった。

② pH の変化に着目すると，本県の降雨は  
pH4.7 程度であるが，森林を通過して河川とな

る間に pH7 以上に上昇し，その効果は，広葉  
樹を擁する河川の方が針葉樹を擁する河川より  
も大きい傾向にあった。

③ 平成 17 - 19 年度の 3 か年の底生動物によ  
る水質評価の結果，後背地に針葉樹林あるいは  
広葉樹林を擁する地点のいずれも良好な水質環  
境であると判断され，両地点間において，底生  
動物による水環境評価指標である ASPT 値や生  
物多様性指数 DI 値に，大きな差異は認められ  
なかった。

④ 針葉樹に比べ，広葉樹林を擁する地点の方  
が，1 科あたりの底生動物個体数が多い傾向が  
認められた。その要因を主成分分析により解析  
したところ，夏期においては河川水中の DO 及  
び Mg 濃度が，また冬期においては T-N 及び Fe  
濃度が影響していることが考えられた。